

AIは、人の心を本当に理解できるのでしょうか。

近年、AIは急速に発展し、私たち人間の生活を大きく変えています。例えば、スマートフォンの音声アシスタント。カメラを通じて周囲の情報を読み上げ、視覚に障がいがある人の目の代わりとすることができます。また、視線や瞬きで文字を選択したり、手話がわからなくても会話したりできる翻訳機能。わずかな動きしかできない重度の障がいを持つ人や、手話で話す聴覚に障がいがある人とのスムーズな意思疎通を可能にしています。これらは、自由に生きる権利の確実な支えとなっています。それだけでなく、被災した地域や紛争地域などでドローンやロボットを使うことで、人命救助を行いやすくなります。そうして、安全な社会環境の構築が進んできています。今後の社会においても、AIはますます重要な役割を担っていくでしょう。

しかし私は、どうしても考えてしまうのです。どれだけ技術が進歩しても、AIには決して届かないものがあるのではないか、と。それは、「人の気持ちに寄り添う力」です。

そう考えるようになったきっかけは、私自身のある経験でした。私は以前、失恋しました。どうしてもないほど落ち込んで、何をすることも上の空という日々が続きました。そんなとき、友人が私にこう言いました。

「つらいよね。」

たったそれだけの言葉でした。特別な励ましでも、立派な助言でもありません。それでも私は、その一言に救われたのです。なぜでしょうか。それは、その言葉の中に「共感」があったからです。私の気持ちを自分のことのように感じてくれている、そう伝わってきたからです。

もしこれがAIだったらどうでしょうか。AIも同じ言葉を言うことはできるかもしれませんが、むしろ、もっと上手な言葉をかけることさえできるでしょう。実際に私は、「チャッピー」という名前で広く親しまれているチャットGPTで試してみました。「チャッピー、私、失恋しちゃった。」私の相談に対してチャッピーは、「それはつらいね。」と伝えてくれました。それに加えて、私の心理状態の分析、今後の行動についての的確なアドバイスをしてくれました。しかし私は、何か違う、という少しモヤモヤとした気持ちになりました。なぜなら、そこには「感じている心」がなかったからです。AIには、失恋はできない。だからこそ、本当の意味で人の心に寄り添うこともできないのです。

AIは、常に正しい答えを出すことができます。最適な言葉を選び、状況に応じた対応をすることもできるでしょう。何より、効率的に問題を解決する力に優れています。そのため、仕事の効率化や社会の発展に大きく貢献するでしょう。しかし、人と人との関係において本当に大切なのは、時間をかけて互いの気持ちを理解し、寄り添い、支え合う「非効率さ」です。気持ちを感じる。相手を思いやること。そして、共に悩み、共に喜ぶこと。この「共感」こそが、人間らしさであり、社会を豊かにするものだとは私は考えます。

これからの時代、AIはさらに進化していくでしょう。もしかすると、人間と見分けがつかないほどになるかもしれません。それでも、人の心を理解し、本当に寄り添えるのは人間だけです。だからこそ私たちは、忘れてはいけません。便利さに頼るあまり、大切なものを手放してはいけません。人を思う気持ち。誰かの痛みに気づく力。そして、そっと寄り添う優しさ。それらはすべて、AIが完全に代わることのできない、人間だけのぬくもりです。AIと共に生きる時代だからこそ、私は問い続けたい。「私たちは人間であり続けられているだろうか」と。人間らしさを失わないこと。それこそが、これからの社会において最も大切なことだと私は考えます。